

## カルガリー大学との学術交流報告

### A report on the Academic Exchange at University of Calgary

窪田千恵

Chie Kubota

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 8, 282-283, 2011年, 受付日:2011年10月4日, 受理日:2011年10月4日

2011年9月7日から9日まで、早稲田大学グローバル COE プログラム事業における、カルガリー大学との学術交流に参加した。今回の訪問の目的は、大学施設の見学、各研究室の見学、および研究成果について発表を行うことであった。

飛行機のシステムトラブルにより、乗り継ぎ便が飛ばず、ソウルに1泊するという思わぬハプニングに見舞われたものの、無事にカルガリーに到着し、その日のうちに Lab ツアーを実施していただいた。カルガリー大学は、14 の faculty、70 以上の programs を有している。今回は主に kinesiology faculty の研究室を見学した。いくつかの研究室を回り、様々な実験器材および研究内容の説明を受けた。カルガリー大学には、医学部や獣医学部があることもあり、早稲田大学では行われていないような実験も多く行われていた。設備は大変充実しており、動物実験の設備はもちろん、私自身は睡眠実験が専門であるため、バイオメカニクス関連の設備や電子顕微鏡を用いての筋繊維の解析など、普段目にしない器材を多く見ることができ、その凄さにただ圧倒されるばかりであった。

その後、大学の近くにあるカナダオリンピックパークに向かった(写真 1)。1988 年にカルガリーで開催された冬季オリンピックの際に使用されたジャンプ台やボブスレーのコースやスケート場などを見学した。スケート場では、子供たちがフィギュアスケートやアイスホッケーの練習を行っており、やはりカナダは冬のスポーツが盛んであると改めて感じた。オリンピック関連の施設はこの他に、大学内に Olympic Oval と呼ばれる建物もあり、実際に

オリンピックで使用されたスケート場を有していた。

カルガリー 2 日目は、今回の主要目的である研究成果に関する発表を行った(写真 2)。早稲田大学の学生は私を含め 7 名、カルガリー大学の学生は 14 名の計 21 名がポスター発表を行い、その後、川上先生、宮本先生の発表が行われた。ポスター発表の形式は昼食を取りながらのフリーディスカッションであったため、たくさんの人と話すことができ、大変勉強になった。私自身、英語で話すことに苦手意識があったため、始めは消極的になってしまっていたが、多くの人が私の拙い英語に耳を傾け、理解しようとしてくれた。こちらが理解できない場合には言い方を変えて話してくれたので、大変有難かった。カナダは多くの人種の人々がおおり、留学生も多いことから異文化を受け入れる風潮があり、英語に自信がなくても心配ないと聞いていたが、実際に話してもみてもその通りであった。

カルガリー大学の学生たちの発表内容には様々なものがあつた。基本的にバイオメカニクス系のものが多かったが、中にはスマートフォンを利用して身体活動を調査できるかといったような興味深い発表もあり、自分の専門外の研究に触れることで良い刺激となった。

発表後にはカルガリー大学の学生たちとの交流の時間を作っていただいたり、カルガリー大学(DINOS)対ブリティッシュコロンビア大学(T-BIRDS)のフットボールの試合に招待していただいたりと、研究だけでなく交流の面でも大変有意

義な時間を過ごすことができた。また、カルガリーは自然にも恵まれており、短い期間ではあったが、その素晴らしい環境を実感することができ、多くのことを得ることができたと思う。

今回の訪問を通して、英語でのコミュニケーション力の重要性を再認識した。自身の反省点としては、やはり英語で話すことへの恐怖心を捨てられなかったことである。質問に対して伝えたいことがうまく伝えられず、逆に自分が質問したいと思っても、自信がないため諦めてしまっていた。しかし、これまで英語での発表は8月に行われたグローバル COE の国際シンポジウムでの1回しか経験がなかった私にとって、今回の発表は非常に良い経

験となり、成長に繋がる部分はあったと思う。英語の会話力を向上させるには、失敗を恐れなくて話すことだと思ったので、今後はこの経験を生かして、質疑応答に対する練習を重ねるとともに、日常のコミュニケーション力を向上させられるように自分から話すことができる積極性を培っていきたい。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださったグローバル COE プログラム、ご尽力いただいた早稲田大学スポーツ科学学術院の先生方に感謝致します。また、今回引率をしてくださった川上泰雄先生、研究院助教の宮本直和先生、そして、カルガリー大学の先生方、大学院生の皆様、大変お世話になりました。心より感謝致します。



写真 1 カナダオリンピックパークにて



写真 2 ポスター発表会場の様子